だいこく通信　第四十二号「夏の号」

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症が引き続き全世界的に流行しています。日本国内では三月十三日に緊急事態宣言が出され、一時期、国全体が自粛生活を余儀なくされました（東京でも六月二日から十一日にかけて東京アラートが出されました）。その後、ある程度感染を抑えることができたとして、五月二十五日に緊急事態宣言が解除され、社会生活はもとに戻ろうとしています。しかしながら、感染拡大は一向に収束する気配がなく、依然予断を許さない状況にあります。一日も早く事態がおさまることを祈るばかりです。

皆様におかれましても、どうぞご体調に気を付けてお過ごしくださいませ。

社報「だいこく通信」第四十二号をお届けします。

今回の内容は、当神社主催の催し物についてのご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。

大國神社　宮司　大島資生

大國神社の今

○境内フェンス修復工事をしました

昨年十月の台風十九号の折の強い風により、社殿裏手のフェンスが大きく破損しました（写真上）。ただちに工事担当業者に連絡をとったのですが、当時は各地で台風の被害が出ており、手が回らない状況とのことでした。

本年四月初めにようやく部材が手配でき、修復が完了しました。強風対策として、従来よりも支柱を増やして補強を施してもらいました（写真下）。

○第九回だいこく落語会　中止しました

四月二十五日（土）に予定しておりました、第九回「だいこく落語会」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、やむなく中止しました。古今亭菊乃丞師匠、また、楽しみにしていただいていました皆様にお詫び申し上げます。

○第六回だいこくクラシックス開催

当神社の秋の催しとして開催しております「だいこくクラシックス」、今年は十月十八日(日)に開催することとなりました。

今回は、元東京都交響楽団ヴィオラ奏者の中山良夫さんによるソロ・リサイタルです。通常は四本の弦をもつヴィオラですが、今回は珍しい五弦のヴィオラによるコンサートで、バッハから現代まで幅広いレパートリーをご披露くださいます。

詳細は八月半ばにお知らせする予定です。どうぞご期待ください。

お宮あれこれ～「み」について～

ご神前で神職が奏上する祝詞には、古い日本語がたくさん使われています。中でも「神酒（みき）」「御食（みけ）」「御恵（みめぐみ）」など「み」で始まる言葉がたくさんあります。今回はこの「み」についてお話しいたしましょう。

「み」は『日本国語大辞典』では次のように説明されています。

名詞の上に付いて、それが神仏、天皇、貴人など尊敬すべき人に属するものであることを示し、敬意を添える。

「み」は他の言葉の前につくことば（接頭辞）で、「道（みち）」や「宮（みや）」の「み」も、同じ接頭辞だろうと言われています。漢字は「御」「美」、また「深」という字が用いられることもあります。なお、「み空」「み雪」「み吉野」などは、その事物をほめたたえて言う言い方（美称）ですが、もともとは同じく敬意を表わす接頭辞から使い方が分かれたものでしょう。

さて、「み」のつく言葉としては、右に挙げた以外に、「みこころ」「みもと（御許）」などもあります。祝詞では「ご神前」ということを「み前」と言います。「み前」は「大前」と表現することもありますが、この「大」も「み」と同じく敬意を表わす言葉です。同じく祝詞で使われる言葉で、「みいつ（御厳・御稜威）」という言葉もあります。「いつ（厳）」、つまり神の威厳を敬っていう言葉です。もう一つ、これも祝詞用語ですが、「恩頼（みたまのふゆ）」という言葉をご紹介しましょう。「みたま」は「御霊」で、神の霊、精霊のことです。「ふゆ」は「触れる」「振る」「殖える」などの意味とされ、「みたまのふゆ」全体で神の霊力による恩恵をいただいている、ということを表わします。

「み」の前にさらに「おお（大）」がついた、「おおみ」という言い方もあります。「大御心（おおみこころ）」「大御神（おおみかみ）」などの言葉にみられます。「おおみ」が変化して「おおん→おん→お」のようになったとされます。ちなみにこの「おおん」の例が紫式部の「源氏物語」冒頭「桐壺」の巻の書き出しで、いづれ

百人一首・紫式部の歌

の御時にか」の「御時」を「おおんとき」と読みます。「おおみ」の「おお」自体も敬意を表わす接頭辞です。「大神」「大神酒」のように用いられました。

神社の「おみくじ」はもとは「みくじ」で、この「み」も敬意を表わす「み」です。神様の「み心」を表わすと考えられたところから「み」がついたもので、それにさらに丁寧に言うための「お」がつきました。

ところで、味噌汁のことを「おみおつけ」と言いますが、この言葉について、これは「御御付」と書くのだ、もともとは「付け」で、丁寧に言うために「お」をつけて「おつけ」、もっと丁寧に言おうとして「みおつけ」、それでもなお丁寧さが足りないから「おみおつけ」になったのだ、という話があります。どうもこれは俗説のようで、「おみおつけ」は「御味御付」で「御味」は味噌のことを表わしているそうです。「おつけ」は武家に仕える女性が用いた女房詞（にょうぼうことば）で、吸い物の汁のことを言いました。飯に並べて付けるという意味です。「御味」ももとは女性が用いていた言葉で、「お味噌」からきています。

「み」だけでなく、神社で耳にする言葉には古い日本語がいろいろあります。お参りの際、日本語の長い歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

祭礼・祈祷などのご案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付　商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
電話　○三―三九一八―七九三○
携帯　○八○―一九八七―八七一六
eメール　daikokujinja@gmail.com

○次回甲子祭
令和二年九月十八日（金）　午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭　毎月一日　午前六時～正午まで

(連載まんが)

大吉うさぎ

～神社豆知識 その９～

くま こまち 作

次号発行予定

「だいこく通信第四十二号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、令和二年九月十八日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第四十二号　令和二年七月二十日発行
編集・発行　大國神社社務所
〒一七〇―〇〇〇三　東京都豊島区駒込三―二―十一
http://www.daikokujinja.org